

夫の家事・育児が妻の幸福度に及ぼす影響

—福井県女性の調査から—

○石井クンツ昌子（お茶の水女子大学）、斎藤悦子（お茶の水女子大学）、
相川頌子（お茶の水女子大学）、山本咲子（お茶の水女子大学）

研究の背景と目的

日本総合研究所（2018）によると、福井県民の幸福度は常に上位にランクインしており、子どもの幸福度も高く、全国平均と比較すると女性労働者数も多い。その上、出生率も高く、待機児童ゼロと保育制度も整っているために、少子化対策や女性の活躍推進などの政策面から「福井モデル」（清山 2018）として脚光を浴びている。よって、県民の幸福度や女性就労に関するデータを見る限りでは、福井県は模範的な県であると言えるだろう。しかし、福井県にもまだ課題が残っている。それは主に、管理職に占める女性の割合が少ないこと、女性のゆとりの時間が少ないこと、男性の育児休業取得率が低く、父親の育児・子育て参加も少ないことなどがあげられるだろう。このような背景を踏まえて、本研究では福井県女性の幸福度に夫の育児・家事参加がどのような影響を与えているのかを検討する。

調査方法と対象者の属性

福井県の若・中年女性の意識や行動を探ることを目的として2019年秋にアンケート調査を実施した。調査対象者は住民基本台帳から無作為に抽出された福井県在住の20代から40代の女性2,250名である（有効回収率38.4%）。世帯形態を見ると最も多いのは夫婦と子ども世帯で35.1%、続いて3世代同居世帯（22.2%）、親と同居（15.7%）、親・祖父母と同居（7.4%）である。調査回答者の最終学歴は大学が29%で最も多く、次いで短大・高専が26%、高等学校25%である。また、82.8%が就業しており、雇用形態は正社員・正職員が約6割で、臨時・パート・アルバイトが26%である。データは重回帰分析、ロジット分析、パス解析手法を使って分析したが、本報告ではパス解析の結果についてのみ述べる。

主な分析結果と考察

パス解析では、女性の幸福度の決め手となる要因として、夫の家事と育児分担割合を媒介変数として入れた。また、夫の家事・育児参加へ影響すると予想された属性（妻の年齢、妻と夫の学歴・年収、子ども数、性別役割分業観）は独立変数としてモデルに入れた。更に、就業と居住環境への満足感は直接女性の幸福度に影響を与える独立変数としてモデルに含んだ。

このパス解析で含んだ独立変数から媒介変数への影響については、教育年数の高い夫の家事分担割合が高く、妻の年齢が低いほど、子ども数が多いほど、性別役割分業観が非伝統的であるほど、夫の育児分担割合が高くなる。そして、媒介変数と幸福度との因果関係については、夫の家事・育児分担の割合は有意な影響を与えていなかったが、自身の仕事満足感と福井県の居住環境への満足感が高ければ幸福度がアップすることがわかった。このパス解析で明らかになったのは、福井県女性の場合は、夫の家事・育児参加からの影響よりも、自身の仕事や生活満足感から幸福度への影響が強いことである。

これらの結果に関しては、2つの解釈が可能である。第一に、福井県の男性の場合、そもそも家事・育児参加割合が低いために、妻の夫への期待度が低く、そのため、夫婦間で家事・育児を分担していなくても、それ自体が妻の幸福度にあまり影響していない可能性がある。第二に、仕事や生活満足感と幸福度は同じ意識を測る変数であるために、これらの変数間の関係が強い傾向にあることも推察できる。

参考文献

清山玲 2018 「幸福度ランキング日本一「福井モデル」を問う」『社会政策』10巻2号5-7。
日本総合研究所（編）寺島実郎監修 2018『全47都道府県幸福ランキング』東洋経済新報社

（キーワード：妻の幸福度、夫の家事育児、福井県女性）